

『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル（AJ ジャーナル）』
投稿規定 第8以降

2015年12月改訂

アカデック・ジャパニーズ・グループ AJ ジャーナル（ウェブジャーナル）編集委員会

1. 投稿資格

共著者も含めて全員がアカデミック・ジャパニーズ・グループの会員でなければならない。
ただし、編集委員会が特に依頼した場合はこの限りではない。

2. 使用言語

投稿原稿は原則として日本語または英語で執筆する。

3. 内容区分

①実践報告、②調査報告、③書評、④短信（授業案・工夫等）のいずれかとし、それを明記のうえ投稿すること。以下の要件を満たし、未発表のものに限る。

全区分に共通の要件：

- ・アカデミック・ジャパニーズおよび関連領域の研究・教育に資するもの
- ・文章の目的・主旨・根拠が明確かつ論理的に示されているもの
- ・表現・用字用語・書式が適切であるもの
- ・個人情報の保護に配慮されているもの

各投稿区分の要件：

- ①実践報告：当該分野の実践の意図と内容が、実践者間で共有可能な形で、具体的かつわかりやすく示されているもの
- ②調査報告：当該分野の現状分析や意識調査など、明確な目的と方法のもとに行われた調査の結果が、妥当な分析を経た上でわかりやすく示されているもの
- ③書評：当該分野の研究にとって価値ある文献に関する妥当な書評
- ④短信：当該分野の研究・教育にとって価値ある情報に関する報告（授業案・工夫等）

4. 用紙・ページ設定・分量

文書はA4サイズとする。1ページは、40字×40行とする（詳細は『原稿サンプル・ファイル』参照）。各投稿区分の分量は、図表や資料も含め、上記設定において下記の字数におさめること。ただし、編集委員会の容認や指示がある場合は、この分量制約に拘束されない。

- ①実践報告、②調査報告、③書評、④短信：8頁以内（12,800字以内）

5. アドバイス体制

各投稿区分については、下記の観点から、必要に応じて編集委員等によってアドバイスを行う。

1. 位置づけの妥当性 : 投稿区分③について
2. 有意義・適切な課題 : 投稿区分①～③について
3. 検証方法の妥当性 : 投稿区分②について
4. 内容・結果の報告価値 : 投稿区分①～④について
5. 分析・考察の妥当性 : 投稿区分①～②について
6. 実践利用に十分な記述 : 投稿区分①, ④について

また、投稿原稿に関しては、内容区分を変更した上での修正を編集委員から依頼する場合、および掲載不可となる場合もある。アドバイスを受けて最終稿を提出する際に、どこをどのように修正したのかを明記した『説明書』を添えて提出すること。

6. 投稿締切

ホームページおよび会員メーリングリストにおいて締切日を周知する。

7. 投稿先

投稿原稿は、該当する号の編集長にメール添付によって送付する。アドレス等はホームページおよび会員メーリングリストにおいて周知する。

8. 投稿原稿作成上の注意

8.1 文書作成ソフト

- ・文書作成ソフトは、Word か、または Word と互換性のあるソフトで作成すること。後者の場合は、変換した Word ファイルを提出すること。
- ・投稿原稿については、Word ファイルに加えて、PDF ファイルも提出すること。

8.2 箇条書き

文頭の番号、点、文字などは、オートコレクト機能を使用せずに直接入力すること。

8.3 図表

- ・図表は文書の中に入れること。
- ・図はイメージデータが望ましい。また、表は Word の罫線を使って作成することが望ましい。

8.4 注と参考文献

注と参考文献・引用文献は、後ろにまとめる。注は本文中に上付添字として示し、Word の引用、脚注機能は使用しないこと。

8.5 連絡先のファイル

原稿タイトル、投稿区分、著者氏名（よみがな）、所属、連絡先（住所・電話・メールアドレス）を記したファイルを、完成原稿とともに提出すること。

8.6 原稿サンプルのファイル

タイトル、名前、要旨、章節立て、注、参考文献の書き方等については、『原稿サンプル・ファイル』に倣うこと（原稿サンプル・ファイルに上書きして原稿を書くこと）。

9. 投稿の際の提出物（以下の3つのファイル）

- ・完成原稿ファイル（論文タイトルをファイル名とすること）（Word と PDF の2形式で提出）
- ・連絡先ファイル（『AJJ 投稿区分本人氏名』をファイル名とすること）

AJ ジャーナル投稿区分

区分	要件 全区分に共通の要件： ・アカデミック・ジャパニーズおよび関連領域の研究・教育に資するもの ・文章の目的・主旨・根拠が明確かつ論理的に示されているもの ・表現・用字用語・書式が適切であるもの ・個人情報の保護に配慮されているもの ・著作権の保護に配慮されているもの	アドバイス観点						上限
		位置づけの妥当性	有意義・適切な課題	検証方法の妥当性	内容・結果の報告価値	分析・考察の妥当性	実践利用に十分な記述	
① 実践報告	当該分野の実践の意図と内容が、実践者間で共有可能な形で、具体的かつ、わかりやすく示されているもの		○		○	○	○	1 頁は A4 サイズ、40 字×40 行とする 8 頁以内 (12,800 字以内)
② 調査報告	当該分野の現状分析や意識調査など、明確な目的と方法のもとに行われた調査の成果が、妥当な分析を経た上でわかりやすく示されているもの		○	○	○	○		
③ 書評	当該分野の研究にとって価値ある文献に関する妥当な書評	○	○		○			
④ 短信	当該分野の研究・教育にとって価値ある情報に関する報告（授業案・工夫等）				○		○	